

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県田沢湖スキー場	所在地	仙北市田沢湖生保内字下高野73-2
指定管理者	田沢湖高原リゾート株式会社	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

1 施設の概要

設置目的	スポーツ及び観光レクリエーション活動の振興を図り、県民の健康の増進や県内外の交流を促進することで地域の活性化を図る。														
県の施策上の施設の位置付け	人口減少の進行やデジタル技術の進展等のほか、コロナ禍により旅行ニーズの個人化・個性化が一層強まるなど、観光を取り巻く環境が大きく変化している中、自立した稼ぐ観光エリアの形成に向けた地域観光の中核施設														
設置年	1997年	経過年数	29年	目標使用年数	60年	残年数	31年	施設面積	敷地面積1,775,538.76㎡、延床面積（公衆便所を含む）5,406.54㎡						
施設の設置状況	管理センター、スキーセンター、かもしかハウス、銀嶺ハウス など														
県内類似施設	協和スキー場（大仙市）、大曲スキー場（大仙市）、大台スキー場（大仙市）八幡平スキー場（鹿角市）						東北各県類似施設	東北6県多数							
施設の基本的な方針（個別施設計画）	方向性	方向性に向けた対応													
	存続	施設の機能維持と利用者の安全確保のため、設備機器等の計画的な改修・更新を行い施設を存続させる。													
料金制	完全利用料金制	主な料金設定	別紙による												
指定期間	令和8年6月1日 ～ 令和18年5月31日（10年間）					営業期間・時間	冬期：12月～4月 午前9時（土休日8時30分）～午後4時、夏期：4月～12月 午前9時～午後4時								
指定管理業務の内容	秋田県田沢湖スキー場に関する次の業務 ①管理運営業務②施設設備維持管理業務③企画運営業務④事務処理業務					自主事業の内容	・スキー場内のレストラン施設における食事の提供 ・スキー場内においてレンタルスキー、託児所、売店の営業 ・各種大会の実施 ・グリーンシーズン営業における、レストラン営業及び各種アクティビティの運営								
サウンディング実施対象	○	年間利用者数（人）	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	年間利用収入（千円）	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
			83,361	96,573	93,521	102,771	94,732		134,765	170,799	194,657	221,637	216,967		
収支決算（千円）	項目		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	増減要因の分析							
	収入	利用料収入	134,765	170,799	194,657	221,637	216,967	年間利用者数	昨シーズンの利用者数は、積雪不足により12月が対前年営業日数で11日間少ない5日間の営業となったため利用者が前年比で8,634人の大幅な減少となり、1月中旬まで利用者は減少傾向で経過した。2月はインバウンド客等の増加などによりほぼ前年並みまで回復し、3月は全日本スキー技術選手権など規模の大きい大会開催等により利用者が増加したが、シーズンを通しての利用者数ではシーズン当初の営業日数の減少の影響が大きく前年度比で9.8%の減となった。						
		指定管理料	0	0	0	0	0								
		その他収入	107,836	126,256	123,422	161,002	157,559								
		合計	242,601	297,055	318,079	382,639	374,526								
	支出	人件費	100,599	107,891	113,286	129,451	139,022	収支決算	収入については、利用料金の見直しや客単価の大きい県外・国外客の誘客促進、各種大会等の誘致に努めた結果、利用者が9.8%減少する中で営業売上上の落ち込みを前年比2.1%の減少に止めることができた。 支出については、種々の社会情勢による物価の上昇や最低賃金の引き上げ、老朽化した施設や機械設備の維持・修繕費の増大などの負担が年々重くなっており、受電契約の見直しや人員の適正配置等による経費節減努力により、対前年1.4%の増となった。 結果、収支差は営業売上が減少する中で一定の最終利益を確保しました。						
		光熱水費	29,995	36,401	42,143	44,934	36,694								
		修繕費	16,924	29,967	32,011	36,550	49,061								
		委託料	2,238	2,256	2,377	2,404	2,837								
		その他支出	116,095	116,626	117,937	148,129	138,866								
		合計	265,851	293,141	307,754	361,468	366,480								
	収支差		▲ 23,250	3,914	10,325	21,171	8,046								

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県田沢湖スキー場	所在地	仙北市田沢湖生保内字下高野73-2
指定管理者	田沢湖高原リフト株式会社	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

2 ＜観点Ⅰ＞施設の設置目的（施設の目指す姿）の達成に関する取組						
運営方針・施設の利用目標	（R6年度以降に指定管理を開始・更新する施設から基本協定書に定めることとなっているため、それまでは記載不要）					
目標・実績	目標の内容					
	年度	R5	R6	R7	増減要因の分析	
	目標	100,000	100,000	105,000	12月の積雪不足等によりスキーシーズンの営業日数が92日となり、利用日数対前年11日減、対計画で8日減となったことで利用者の目標を達成することができなかった。特に12月の目標利用者13,000人に対し8,616人不足したことが大きく影響した。	
	実績	93,521	102,771	94,732		
	達成率	93.5%	102.8%	90.2%		
	具体的な取組とその効果	全日本スキー技術選手権をはじめとするスキー・スノーボードの大会の誘致や豊富な昼食メニューの提供、様々なアイテムを配置したスノーパークの造成、SNSを活用した情報発信等により、県外客やインバウンド客の利用者が増加し、客単価の向上とともに宿泊施設等を含む地域全体の集客に貢献できた。				
次年度の目標	目標の内容	利用者数 100,000人				
	設定の根拠	秋田県営田沢湖スキー場の管理に関する基本協定書				
＜観点Ⅰ＞評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）			
	指定管理者	B	シーズン初めの降雪が少なく営業日数・利用客が減少したため目標の105,000人を達成できなかったが、大会誘致やSNS発信・県支援による雪アソビ割などの効果により県外客やインバウンド客は増加した。県内客は減少傾向にあるものの、県外客・インバウンド客の増加は、スキー場経営の安定に大いに寄与しており、施設の設置目的の達成や周辺の観光施設の集客に貢献している。			
	県所管課	B	後半にインバウンドや秋田県冬アソビ割等の効果がみられたものの、シーズン初めの営業日数減少が影響し、目標である利用者105,000人を達成できなかった。通年での集客を図るためグリーンシーズンの営業に取り組んでいるところでもあるが、今後は増加が見込めるインバウンドの受入体制整備を進めるとともに、SNSを活用したPR等を積極的に行い、さらなる利用者獲得に注力していただきたい。			
3 ＜観点Ⅱ＞施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組						
利用者満足度の実績	年度	R5	R6	R7	増減要因の分析	
	実績（％）	87.6	90	85.6	シーズン当初の積雪不足や大会開催によるコース閉鎖等で前年よりやや評価が下がったが、高水準の満足度を維持している。	
	具体的な取組とその効果	きめ細かな圧雪や多彩なスノーパーク、レストランメニューや売店のオリジナル商品の充実、抽選会などのイベントが好評で高い満足度に結びついた。また、秋田県冬アソビ割の商品が好評でお客様の評価が高かった。				
＜観点Ⅱ＞評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）			
	指定管理者	A	イベント情報の発信やゲレ食のメニューと売店商品の充実に対する評価が高く、スキー場のゲレンデや施設の管理状況・スタッフの対応等も高評価で、満足度80%以上となっている。			
	県所管課	A	誰もが楽しめるゲレンデや施設の管理を行っている他、食事や売店商品の充実など利用者のニーズに対応し、目標である満足度80%以上を達成している。			

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県田沢湖スキー場	所在地	仙北市田沢湖生保内字下高野73-2
指定管理者	田沢湖高原リフト株式会社	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

4 <観点Ⅲ>県民サービス及び業務効率性の向上と公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

モニタリング項目	モニタリング項目		主な視点	指定管理者	県所管課
	管理運営体制	① 職員の配置状況	事業計画書等に照らして適切な職員配置となっているか 等	A	A
		② 職員の勤務実績	事業計画書等に照らして適切な勤務実績となっているか 等	A	A
		③ 職員の処遇等	職員の処遇が労働法規に反していないか 等	A	A
		④ 施設等の適切な管理	事業計画書等に照らして日常的な保守管理や定期点検、清掃、警備、修繕等がなされているか 等	B	B
		⑤ 備品の適切な管理	備品の紛失・損傷はないか 等	A	A
		⑥ 個人情報の保護	個人情報取扱特記事項が遵守されているか 等	A	A
		⑦ 安全・安心の確保	事故防止マニュアルや緊急時連絡体制を整備しているか 等	A	A
		⑧ 経費の低減・収入の増加	経費の低減や収入の増加の取組が進められ、前年度と比較し、施設の収支状況が改善されたか 等	B	B
		⑨ 健全な経営	指定管理者選定時の財務指標と比較し、特段の経営の悪化がみられないか 等	A	A
	サービス向上	① 開館日・開館時間等	事業計画書等に照らして適切な開館状況となっているか 等	A	A
		② 業務の実施	事業計画書等に照らして適切な業務が実施されているか 等	A	A
		③ 施設の使用許可	事業計画書等に照らして適切に使用許可がされているか、優先的又は不利益な取り扱いはないか 等	A	A
		④ 職員の接客	丁寧な対応や挨拶がなされているか、名札着用や適正な服装をしているか 等	B	B
		⑤ 広報・利用情報の発信	ウェブサイトやSNS、パンフレットなど、多様な媒体により積極的な広報を実施しているか 等	A	A
		⑥ 利用者の相談・意見・苦情	ウェブサイトや電話等による相談窓口を整備し、利用者からの相談・意見・苦情への対応策を講じているか 等	B	B
		⑦ 課題への対応	利用状況のほか、満足度調査等から課題を抽出し、対応策を講じているか 等	A	A
<観点Ⅲ>評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）		
	指定管理者	A	日常的な保守管理の徹底に加え、県の理解を得ながら優先順位をつけて施設の整備・更新を計画的に実施しており、施設・機械等の老朽化への対応は概ね順調に進んでいる。また、前年と比べ収支が厳しくなるなかでも車両や営業機器の入換え等は計画的に実施している。接客のあいさつ・営業時間等のご案内等ご意見をいただくこともあったが、社員に対する指示を徹底し丁寧に迅速な対応を心がけており、全体としてA評価とした。		
	県所管課	A	収支が厳しい状況下にあっても、経費節減や売上向上のための業務改善など、黒字経営に向けて前向きに取り組んでいる。研修計画を基にした安全技術や接遇等の研修により職員の資質向上を図っている他、日常的な施設の点検を的確に実施している。		

指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県田沢湖スキー場	所在地	仙北市田沢湖生保内字下高野73-2
指定管理者	田沢湖高原リフト株式会社	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

5 県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方		
県の施策の達成状況	仙北・田沢湖地域のスポーツ及び観光レクリエーション活動の拠点として利用され、また、全国規模の大会やイベントの誘致を進め周辺地域への誘客にも寄与している。	
施設運営の課題	1970年に建設されてから55年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、各種設備等の修繕を計画的に実施していく必要がある。	
今後の方向性	利用者の安全や利便性の向上を図るための施設修繕を実施し、引き続き、仙北・田沢湖地域のスポーツ及び観光レクリエーション活動の観光拠点施設として周辺地域への誘客を図る。	
6 外部有識者委員会による評価（提言）		
評価(提言)令和5年度	施設の管理運営状況	・R4年度の利用者は大きく増加しており、評価できる。県南地域の冬季観光・スポーツ拠点として今後も尽力いただきたい。 ・国内スキー人口が減少する中、インバウンド誘客対策について検討が必要と考える。特に、最寄りの田沢湖駅は新幹線停車駅であるが、当該駅から離れている立地状況を踏まえ、誘客のための駅からスキー場までのアクセス対応等について検討が必要と考える。 ・R4年度は黒字となっているが、過去の収支は厳しい状況となっていることから、経営改善について検討が必要と考える。
	県の施策達成に向けた施設運営	・次期公募に当たっては、過去の収支状況に鑑み、利益確保対策等に係る指定管理料抛出の必要性及び選定基準等に関して検討が必要と考える。また、更なる販促活動等の方向性についても検討が必要と考える。 ・索道設備について、人身事故に繋がる可能性もあることから、限りある財源の中で安全性が担保できない場合は、除却等も含めた今後の対応方針について検討が必要と考える。
評価(提言)を踏まえた対応方針令和5年度	指定管理者	・インバウンド客や県外客の拡大は経営改善を図る上での最大の課題であることから、令和5年度に韓国・台湾・中国・オーストラリア等をターゲットとした商談会（オンライン含む）やフェア、県外でのPRイベント等に積極的に参加しており、今後も継続的に取り組む。 ・スキー場へのアクセス改善を図るため、JR田沢湖駅からスキー場を経由して乳頭温泉に至るバス路線について、スキーハウス「レラ」前を経由するようにルート変更を運行会社に申し入れているが、現状では新幹線との乗り継ぎ時間の関係で実現しておらず、今後も働きかけを継続していく。 ・今後の経営改善に向けては、全体的なコストの削減を進めつつ、純粋にスキーを楽しみたいお客様に加え、雪遊びや自然とのふれあいの場、食事や喫茶の場、美しい景色を楽しむ場などスキー場の持つ多面的な機能を一年を通じて楽しめる施設への転換を進め、稼ぐ力を計画的に高めていく。
	県所管課	・次期公募に係る完全利用料金制以外の方法の採用や選定基準等については、物価上昇や最低賃金上昇等の動向を踏まえつつ、サウンディングにより民間事業者等から意見を聴取の上、判断する。また、販促活動等については効果的に行われるよう指定管理者と協議する。 ・安全を第一に適切な施設運営を指定管理者に指導するとともに、安全性に問題がある設備については、速やかに改修・更新を行うとともに、必要な修繕・更新が行われない場合は、休止や除却を行う。
対応方針の進捗状況令和7年度	指定管理者	インバウンド客や県外客の拡大は、インバウンド商談会(オンライン含む)やインディパス・アースホッパー等のWeb販売、石井スポーツのカスタムフェア、鉄道の日でのPR等県外イベントへの参加などを通じて積極的に取り組んでおり今後も継続して実施する。また、路線バスのスキー場前停留場をスキーハウス前に変更することについてバス事業者と協議するなど2次アクセスの改善に向けた取り組みも継続している。コストの削減については、電気料金の契約先を変更して基本料金の節減や使用電力の見える化による節電を進め一定の成果をあげている。今後は、スキー場の楽しみ方の一層の充実を図るとともに、人員の適正配置の徹底や省エネ製品等への切り替えなどにより一層の収益性の向上を目指していく。
	県所管課	・前年度に実施したサウンディングを基に、次期指定管理者の公募を行った。また、今後の販促活動について、インバウンド客や県外客を継続的に取り込めるよう指定管理者と協議を行っていく。 ・利用者の安全性に問題が生じないよう設備内容を精査した上で、緊急性や重要度の高いものから優先して速やかに修繕・更新等の対応を行った。